# 薬剤師の需給動向把握事業における調査結果概要

## 全体の構成

- 1. 調査概要(件数等のまとめ)
- 2. 薬局
  - (1)人員・勤務体制
  - (2)取扱品目数
  - (3)医療機関等との連携体制
  - (4)在宅業務
  - (5)調剤機器等の導入
  - (6)職場環境・制度等
  - (7)キャリアステップ
- 3. 病院
  - (1)人員・勤務体制
  - (2)薬局との連携体制
  - (3)調剤機器等の導入
  - (4)職場環境・制度等
  - (5)キャリアステップ

### 1. 調査概要

### 1. 薬局及び医療機関における薬剤師業務の実態調査(タイムスタディ調査)

- ①薬局に従事する薬剤師(6薬局において調査実施)
  - \*新型コロナ感染症の影響もあり訪問箇所が限られたため、過去のタイムスタディ調査である平成27年度厚生労働科学研究「薬局・ 薬剤師の業務実態の把握とそのあり方に関する調査研究」の内容も含め解析。

### ②医療機関に従事する薬剤師

\*新型コロナ感染症の影響で直接訪問することができなかったので、令和元年厚生労働科学研究費補助金「病院における薬剤師の働き方の実態を踏まえた生産性の向上と薬剤師業務のあり方に関する研究」(研究代表者:武田泰生・鹿児島大学附属病院教授)で実施した医療機関及び勤務する薬剤師に対する調査結果に基づき分析した。(病院:215施設、薬剤師:4,780人)

### 2. 薬剤師の働き方に関する調査

全国の薬局、医療機関(病院、診療所)及び各施設に従事する薬剤師等を対象に調査を実施した。 (薬剤師等は、施設調査の対象施設の従事者に回答を依頼)

配布•回収数:

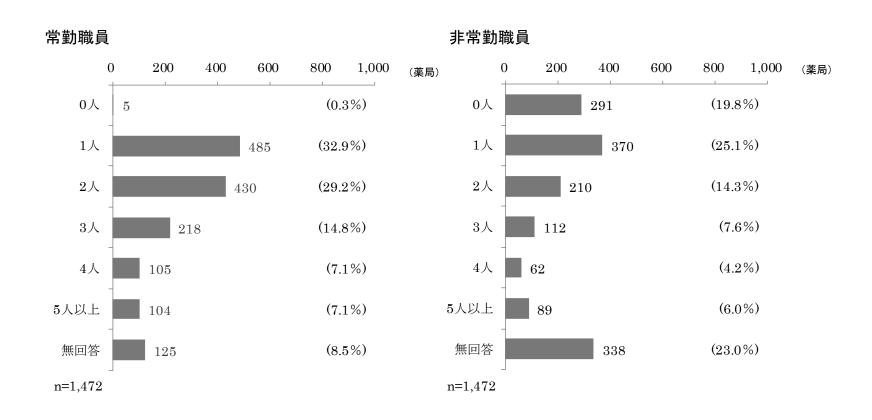
	施設調査			薬剤師等調査	
	配布	回収	回収率	配布	回収
薬局	5,564	1,472	26.4%	30,460	5,178
医療機関	1,089	249	22.8%	4,633	854

### 3. 先進的取組事例調査

ICTの活用も含め、対人業務の充実とともに調剤業務の効率化に取り組んでいる施設、薬剤師の働き方改革に取り組んでいる施設等の先進的な取組を行っている施設に対してヒアリング等により調査を行った。(医療機関6施設、薬局10施設においてヒアリング実施)

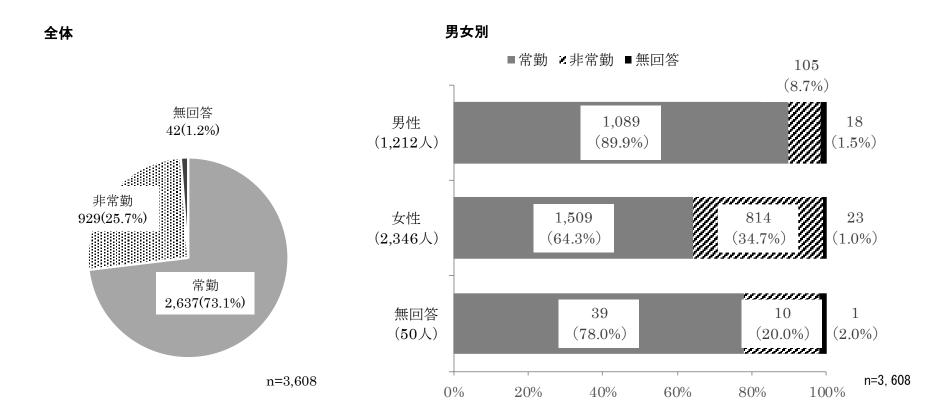
## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の職員数)

### ○ 常勤職員の人数は2人以下が半数以上(62.4%)である。



## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の勤務形態)

- 薬局薬剤師の勤務形態は、常勤が73.1%、非常勤が25.7%であった。 (参考:病院薬剤師は、常勤が92.7% (p.48を参照))
- 〇 男女別では、男性は常勤が89.9%、女性は常勤が64.3%であり、女性 の方が非常勤の割合が高い。



### 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (処方箋 1 枚の処理時間)

○ タイムスタディによる薬局における処方箋 1 枚の処理に要する平均 時間は12分41秒である。

業務内容	平均値(分)
受付•薬袋準備	01:08
薬歴確認・処方箋監査	02:26
計数調剤	02:33
監査	03:05
薬剤交付・服薬指導	03:29
合計	12:41

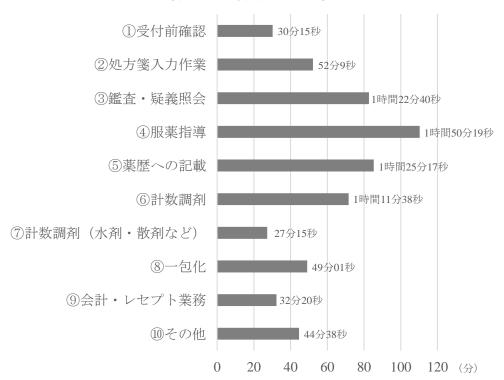
- 5箇所の薬局における外来患者を対象に、76枚の処方箋について調査
- 処方箋1枚の受付から薬剤交付・記録までの時間を業務ごとに測定
- なお、調剤のうち、計数調剤(錠剤等を取り揃える行為)の業務を測定(液剤等の計量調剤、一包化を要する 業務は、本測定には含まれていない)。

### 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1日における処方箋調剤業務・その他業務の累計時間)

- 〇 直近出勤日1日の処方箋調剤に関する業務の累計時間は9時間45分、 処方箋調剤業務以外の累計時間は1時間33分であった。
- 処方箋調剤に関する業務では、「服薬指導」の累計時間が最も長く、 次いで、「薬歴への記載」「鑑査・疑義照会」の時間が長い。

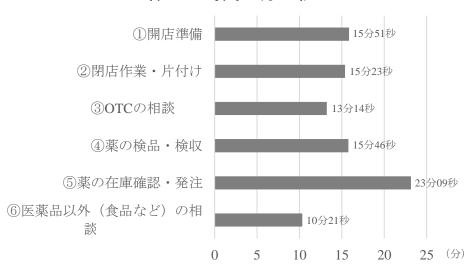
### ●処方箋による調剤に関わる業務

全体: 9時間45分32秒



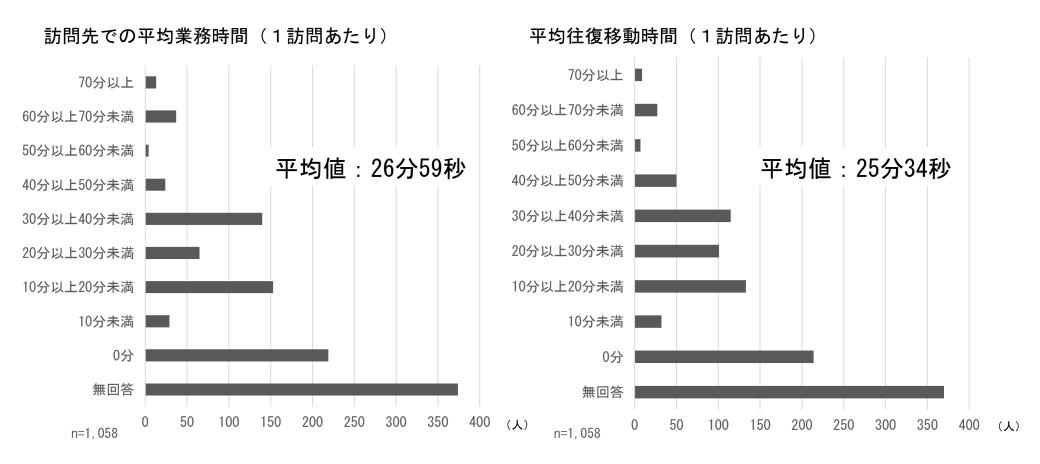
#### ●処方箋による調剤業務以外

全体: 1時間33分44秒



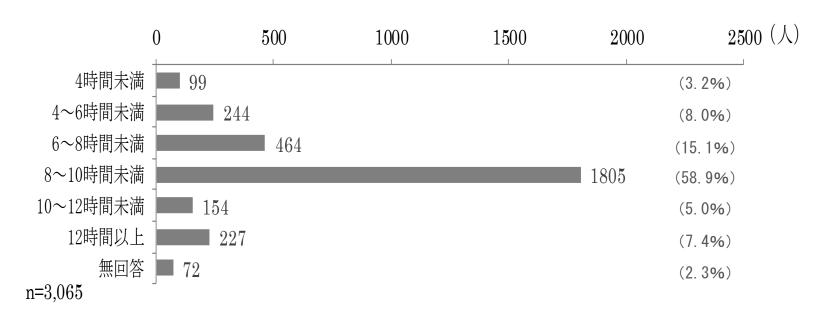
## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (在宅に関連する業務時間)

〇 令和2年9月の患者の在宅業務に関連する1訪問あたりの業務時間 の平均は以下のとおり。



## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1日の勤務時間)

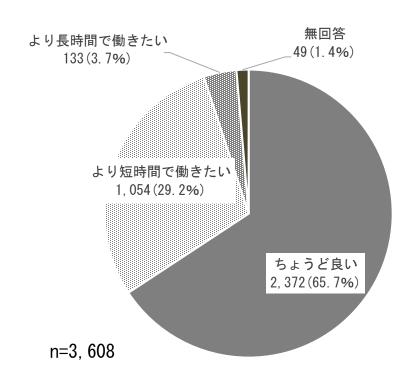
〇 業務日の勤務時間合計(休憩時間は除く、残業を含む)は、8~10時間が最も多い。



分布は平日(月曜日~金曜日)で同様の傾向であったため、例として月曜日を提示 調査対象は常勤薬剤師及び非常勤薬剤師

## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (勤務時間と理想的な働き方)

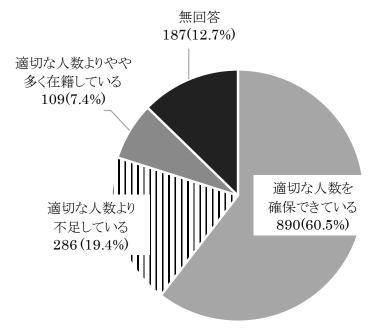
○ 現在の勤務時間実績に関して、「ちょうど良い」が65.7%で最も多く、「より短時間で働きたい」と感じている薬剤師も29.2%存在する。 (参考:病院薬剤師は、「ちょうど良い」が61.0%、「より短時間で働きたい」が35.5% (p.56を参照))



### 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (人員数の充足状況)

○ 薬剤師人員数の充足状況については、「適切な人数を確保できている」が最も多く(60.5%)、「適切な人数より不足している」が19.4%であった。

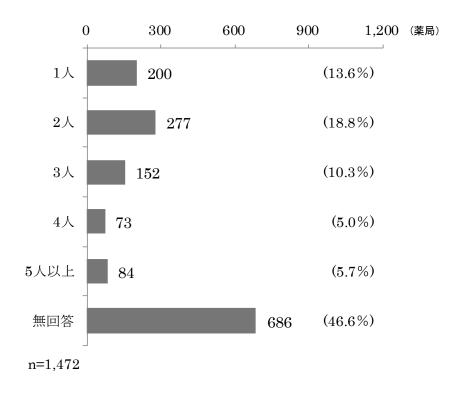
(参考:病院は、「必要な人数より不足している」が50.5%、「必要な人数を確保できている」が38.2% (p.57を参照))



n=1,472

## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (適切な充足人員総数)

〇 適切な充足人数の総数(常勤換算)は、1~3人が多い(42.7%)。



### 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の募集(1)(常時・定期募集の実施状況))

〇 平成31年1月~令和元年12月における薬剤師の常時募集、定期(毎年同じ時期)の募集状況は以下のとおり。薬局と比較して病院の方が募集割合が高い。

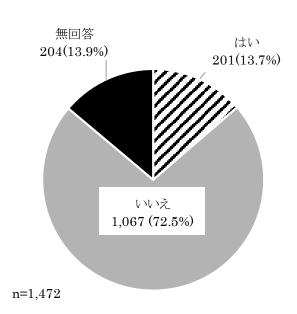
(参考:病院では、常時募集の実施割合は40.2% (p.59を参照) 、 定期募集の実施割合は27.5% (p.60を参照))

○ 定期募集開始後3カ月以内に応募があった割合は、19.4%であった。

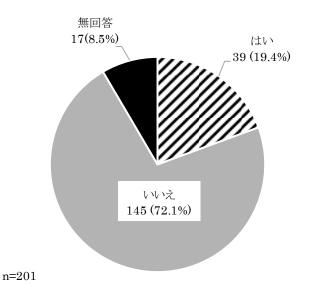
#### 常時の募集状況

## 無回答 157(10.7%) 392(26.6%) いいえ 923 (62.7%)

### 定期(毎年同じ時期)の募集状況



#### 定期募集開始後3カ月以内の応募有無



3. 働き方に関する調査 ①薬局の施設調査

## 2. 薬局 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の募集②(臨時募集の実施状況/実施理由))

- 平成31年1月~令和元年12月の1年間に臨時に薬剤師を募集した薬局は16.2%であった。このうち、3カ月以内に応募があった割合は、53.6%であった。
- 〇 臨時募集の理由(複数回答)は、「退職した職員が出たため」が最も 多く43.1%であった。



### 臨時募集開始後3カ月以内の応募有無

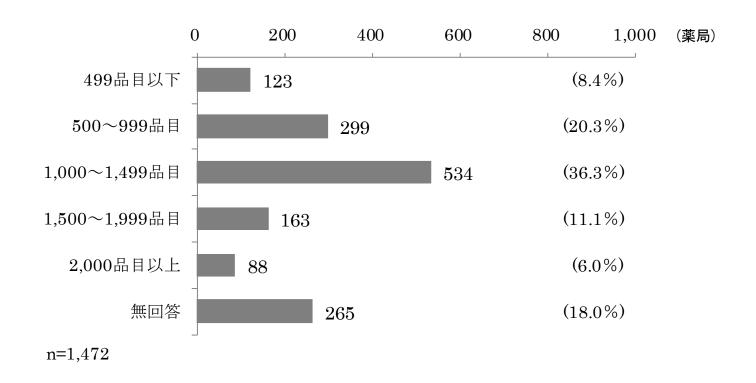
#### 臨時薬剤師募集理由



3. 働き方に関する調査 ①薬局の施設調査

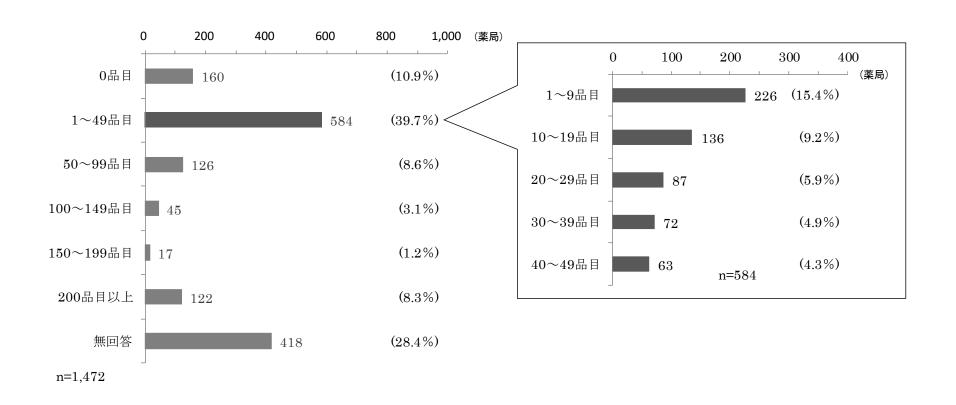
## 2. 薬局 (2)取扱品目数 (医療用医薬品)

- 〇 医療用医薬品の取扱いが1,500品目未満の薬局が半数以上(65.0%) であり、1,000~1,499品目の薬局が最も多い(36.3%)。
- 平均の取扱品目数は、1,198品目。



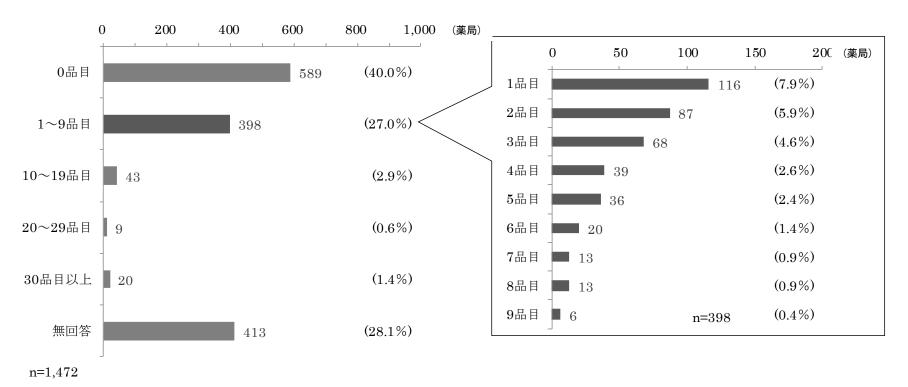
## 2. 薬局 (2)取扱品目数 (一般用医薬品)

〇 一般用医薬品の取扱いが50品目未満の薬局が50.6%であり、一般用 医薬品を取り扱っていない薬局が10%であった。



## 2. 薬局 (2)取扱品目数 (要指導医薬品)

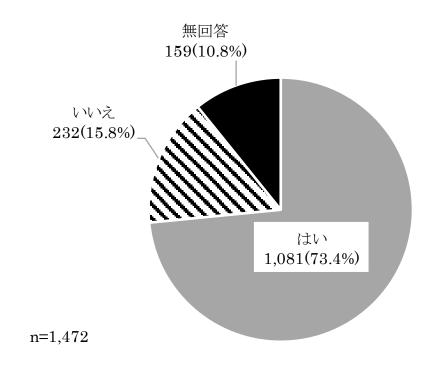
〇 要指導医薬品の取扱いが10品目未満の薬局が67.0%であり、要指導 医薬品を取り扱っていない薬局が40.0%であった。



(参考) 令和2年9月1日 (調査日) 時点の要指導医薬品の品目数:19品目

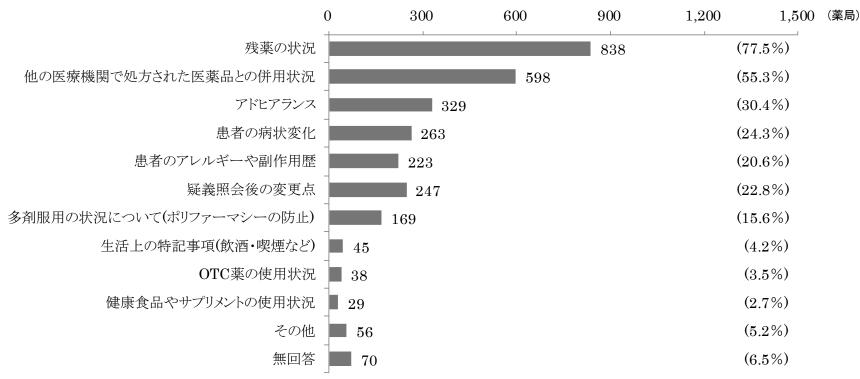
## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (医療機関への情報提供①(実績))

〇 処方元の医師に対する患者の服薬状況等の情報提供を、73.4%の薬局が実施したことがある(令和2年9月時点)。



## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (医療機関への情報提供②(内容))

〇 令和2年9月の1カ月間に医療機関に提供した情報の内容として、 半数以上の薬局が「残薬の状況」「他の医療機関で処方された医薬 品との併用状況」を挙げている。

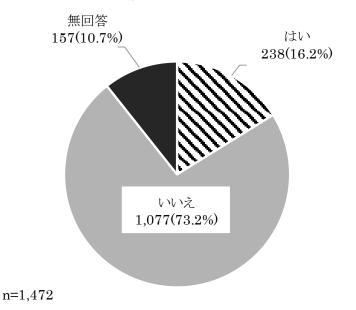


n=1,081 (複数回答)

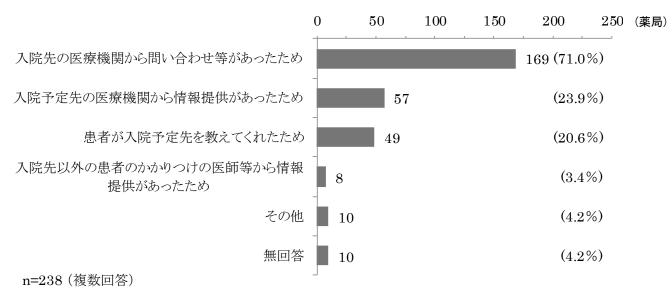
## 2. 薬局 (3)医療機関等との連携体制 (患者入院時の医療機関への情報提供)

- かかりつけ患者等の入院時、医療機関へお薬手帳以外の書面を用いて 情報提供を行うことがある割合は16.2%であった。
- 〇 このうち、平成31年1月~令和元年12月の1年間における情報提供のきっかけは、「入院先の医療機関から問い合わせ等があったため」が71.0%で最も多い。





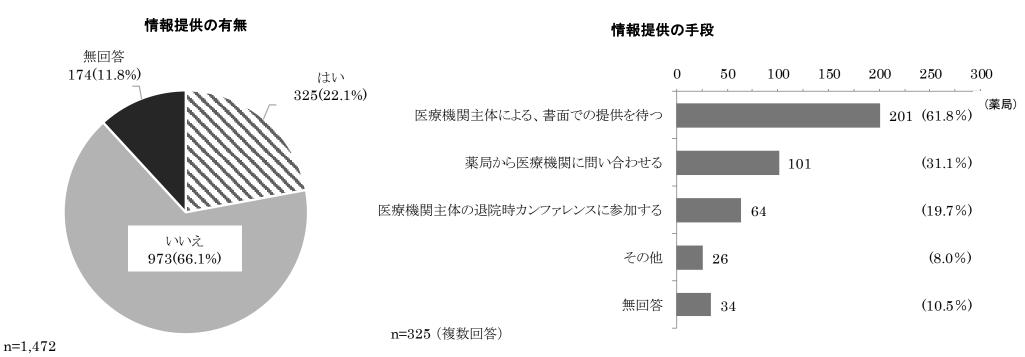
#### 情報提供のきっかけ



3. 働き方に関する調査 ①薬局の施設調査

## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (患者退院時の医療機関からの情報提供)

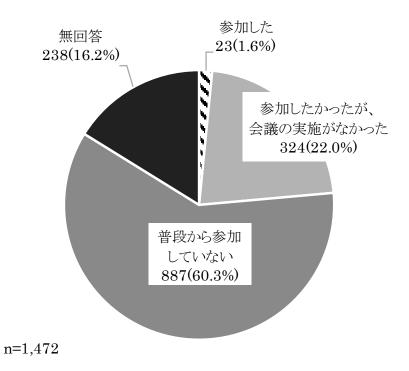
- 〇 かかりつけ患者等の退院時、医療機関から情報を共有する体制がある割合は22.1%であった。
- 〇 このうち、平成31年1月~令和元年12月の1年間における医療機関からの情報提供の手段としては「医療機関主体による、書面での提供を待つ」が61.8%と最も多い。

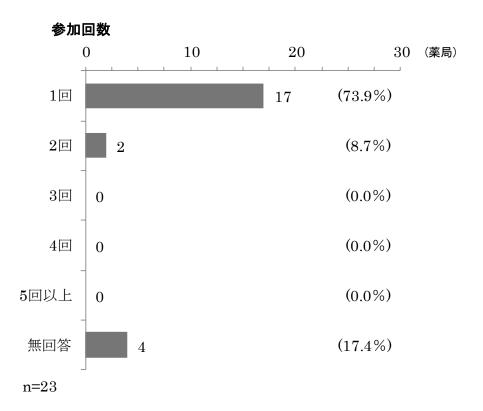


## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (関係会議等への参加①(退院時カンファレンス))

- 令和2年9月における退院時カンファレンスへの参加実績は1.6%であったが、「参加したかったが会議実績がなかった」が22.0%であり、参加意思のある薬局が約2割であった。
- 参加実績のある薬局のうち、参加回数は「1回/1カ月」が最も多い (73.9%)。

#### 参加実績の有無

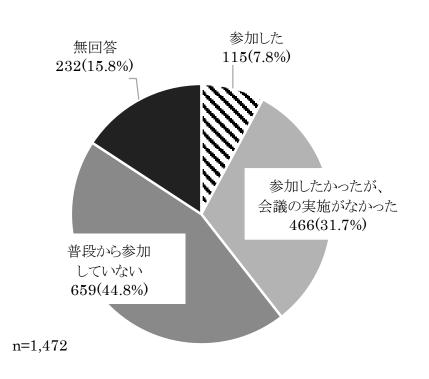


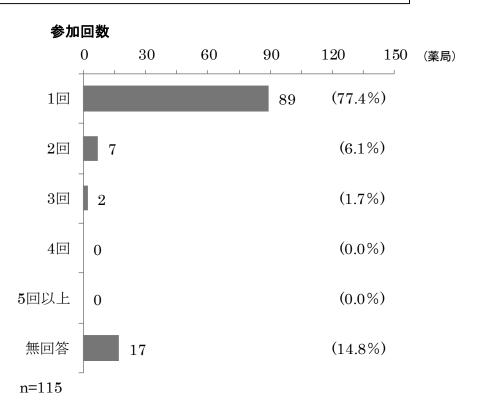


## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (関係会議等への参加②(地域ケア会議))

- 令和2年9月における地域ケア会議への参加実績は7.8%であったが、「参加したかったが会議実績がなかった」が31.7%であり、参加意思のある薬局が約4割であった。
- 参加実績のある薬局のうち、参加回数は「1回/1カ月」が最も多い (77.4%)。

#### 参加実績の有無

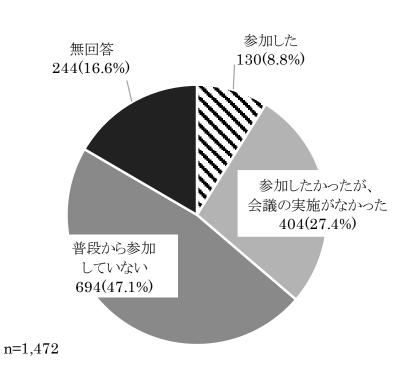


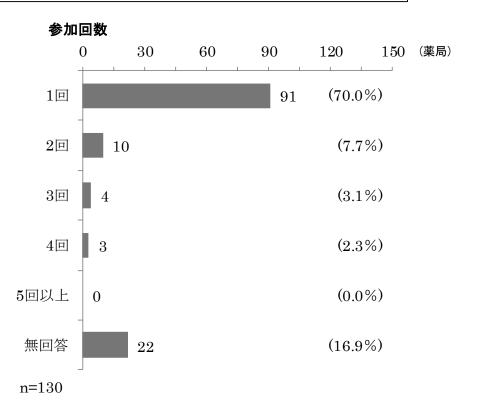


## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (関係会議等への参加③(サービス担当者会議))

- 令和2年9月におけるサービス担当者会議への参加実績は8.8%であったが、「参加したかったが会議実績がなかった」が27.4%であり、参加意思のある薬局が約3.5割であった。
- 参加実績のある薬局のうち、参加回数は「1回/1か月」が最も多い (70.0%)。

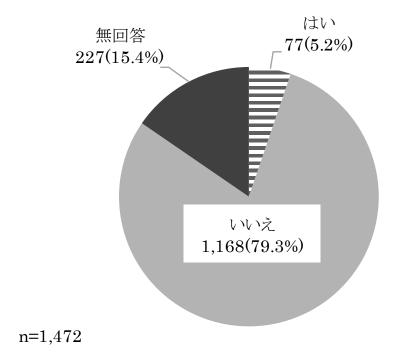
#### 参加実績の有無





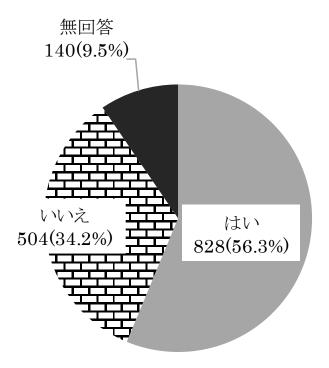
## 2. 薬局 (3) 医療機関等との連携体制 (他の薬局への情報提供)

〇 令和元年において、患者が普段利用している薬局へ指導結果等の情報 を提供を行った薬局は、5.2%であった。



## 2. 薬局 (4)在宅業務 (患者居宅等への訪問①)

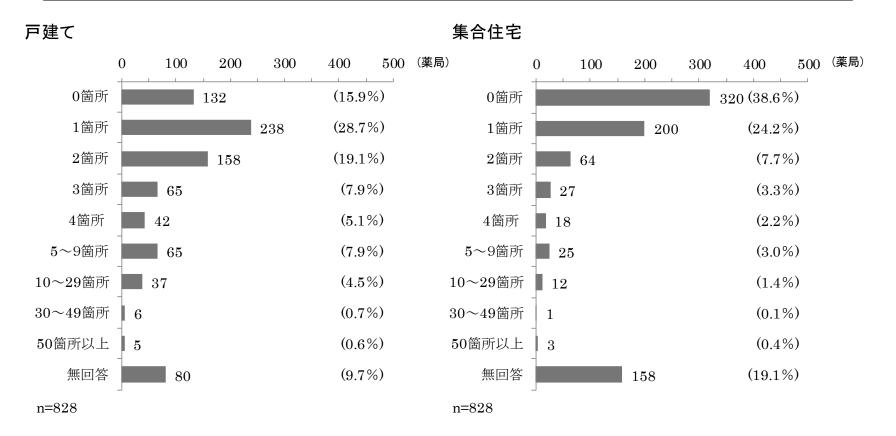
○ 半数以上の薬局で、職員が患者の居宅へ訪問して業務を行っている。



n=1,472

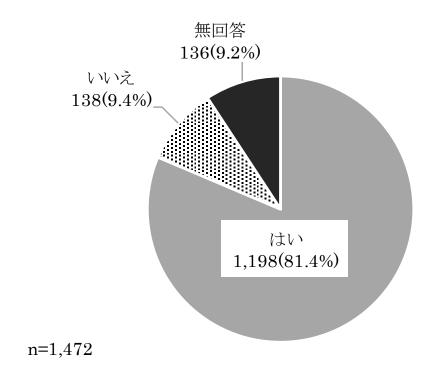
## 2. 薬局 (4)在宅業務 (患者居宅等への訪問②)

○ 訪問業務を行っている薬局の、令和2年9月の1カ月間における戸建て 及び集合住宅への累計の訪問数は、それぞれ1箇所以下が約半数を占 めている。



### 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (麻薬小売業免許の取得状況)

〇 令和2年9月時点で、麻薬小売業の免許を取得している薬局は81.4%。

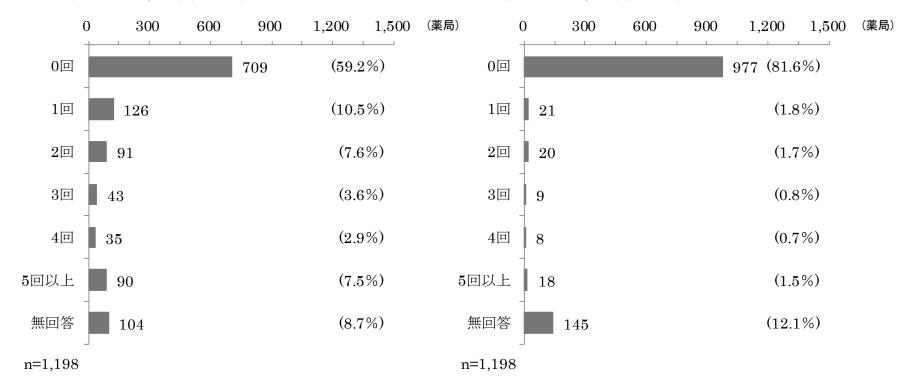


### 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (麻薬調剤回数)

○ 令和2年9月の1カ月間における外来患者及び在宅患者への麻薬の調剤は、 外来患者の方が多い。

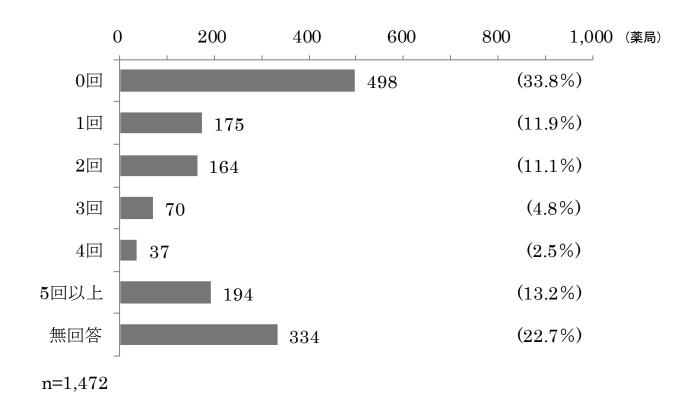
#### 外来患者への麻薬の調剤回数

### 在宅患者への麻薬の調剤回数



### 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (抗がん剤処方箋)

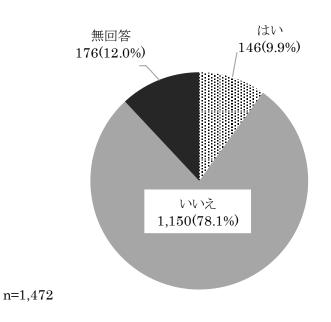
〇 令和2年9月の1カ月間における抗がん剤が含まれた処方箋の受付回数は、2回以下が約半数を占めている。



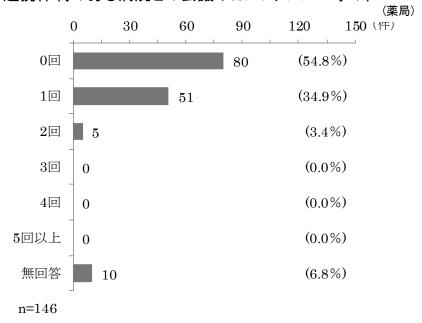
### 2. 薬局 (5) 麻薬・無菌製剤等の調剤 (がん診療連携拠点病院との連携)

- 〇 令和2年9月時点でがん診療連携拠点病院との連携体制がある薬局は 全体の9.9%であった。
- 連携体制を有する薬局における、連携拠点病院との1か月間の会議やカンファレンス等の実施件数は「0~1件/1カ月」が89.7%であった。

#### がん診療連携拠点病院との連携体制

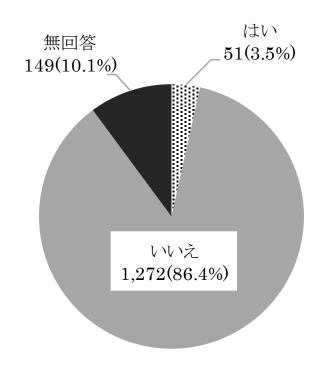


#### 連携体制のある病院との会議やカンファレンス等の件数



### 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (無菌製剤処方箋①(受付薬局))

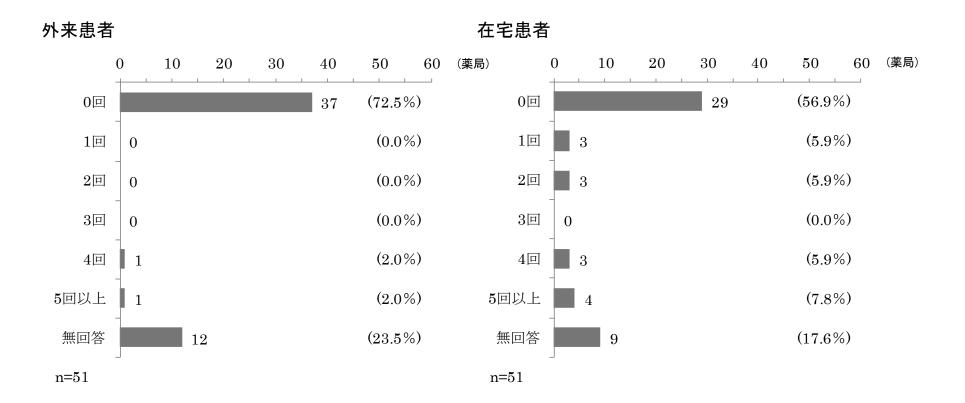
〇 過去に1度でも無菌製剤の調剤を要する処方箋を持った患者が来局した ことのある薬局は3.5%であった。



n=1,472

## 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (無菌製剤処方箋②(調剤回数))

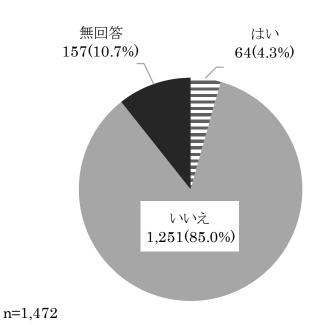
○ 無菌製剤の調製を要する処方箋を持った患者が来局した経験がある薬局 での、令和2年9月の1カ月の無菌製剤の調剤回数は、在宅患者の方が 多い。



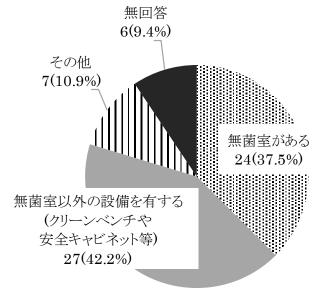
### 2. 薬局 (5)麻薬・無菌製剤等の調剤 (無菌製剤処方箋③(設備))

- 〇 令和2年9月時点で無菌製剤処理を行うための設備を有している薬局は4.3%であった。
- 〇 このうち、有している無菌製剤処理を行うための設備は、無菌室と無菌室以外の設備(クリーンベンチ、安全キャビネット等)がほぼ同数であった。

無菌製剤処理を行うための施設の保有状況



無菌製剤処理を行うための施設

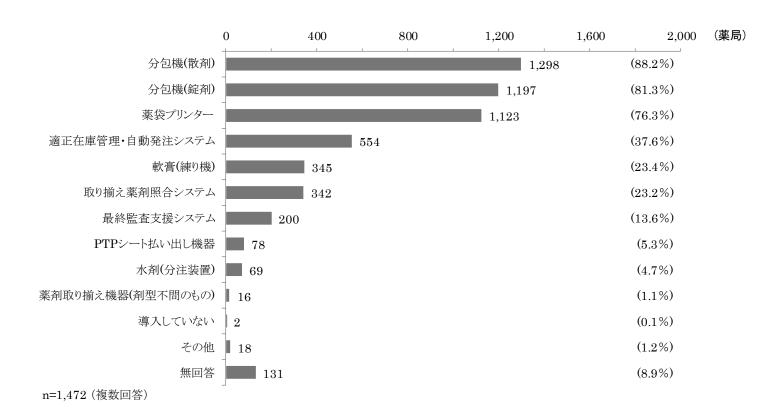


n = 64

### 2. 薬局 (5)調剤機器等の導入 (機器の種類)

〇 分包機や薬袋プリンターを約7~9割の薬局が導入している(令和2 年9月時点)。

(参考:病院における導入は、分包機は約9割、薬袋プリンターは約6割(p.63を参照))。



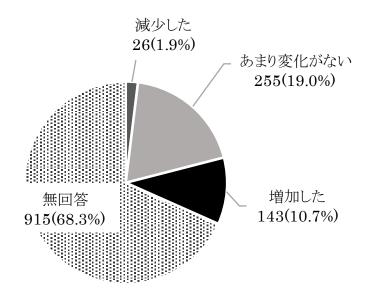
### 2. 薬局 (5)調剤機器等の導入 (機械化の効果)

- 〇 調剤業務の機械化により、薬剤師の調剤業務時間が「減少した」とする薬局は18.4%であった。(参考:病院では35.8%(p.64を参照))
- 調剤業務の機械化により、薬剤師の対人業務時間が「増加した」とする薬局は10.7%であった。(参考:病院では17.2%(p.64を参照))

#### 薬剤師の調剤業務時間

## 減少した 246(18.4%) あまり変化がない 168(12.5%) 無回答 909(67.9%) 増加した 16(1.2%)

### 薬剤師の対人業務時間



n=1,339

n=1.339

## 先進的取組事例(調剤業務の機械化①)

◆ 調剤業務の全作業に対する機器導入及びその効果の検証例

作業工程	機器・システム
受付	2次元バーコード読み込み 待ち時間・受付管理システム
取り揃え・調整	PTPシート全自動薬剤払出機 薬剤払出支援調剤棚 ※1 水剤定量分注機 散在調剤ロボット 軟膏調剤・製剤機 全自動錠剤分包機、 錠剤一包化監査支援システム 指示書
監査	監査システム
薬歴入力	音声入力システム ※2

## <システム機器導入による効果)>

● 処理処方箋枚数の増加と患者待ち時間の減少

処理処方箋枚数:前年比 103.2% 患者の待ち時間:前年比 78%

● 薬剤師一人当たりの処理枚数の増加

薬剤師平均人数:前年度比 1名減員

薬剤一人当たりの処理枚数: 24.9枚→28.4枚

- ※1 錠剤・カプセル剤を1錠単位まで端数カットし、シートとカット端数が最適な 組み合わせとなるように自動計算し、指定個数を自動的に払出。
- ※2 自動音声認識・薬歴一体型システム。音声入力による、薬歴作成が可能。

## 先進的取組事例 (調剤業務の機械化②)

◆ 調剤業務の機械化・積極活用に取り組んでいる薬局で導入されている調剤機器例

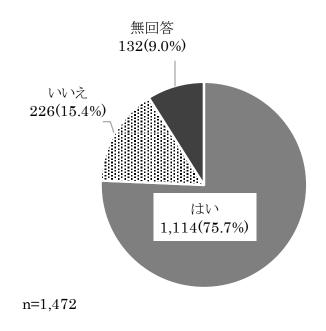
作業工程	機器・システム	
取り揃え・調整	医薬品自動入庫払出装置 <sup>※1</sup> PDA型ハンディターミナル <sup>※2</sup> 自動半錠割器 自動錠剤分包機 自動散剤分包機 水剤分注機	
監査	一包化監査支援システム <sup>※3</sup> 調剤過誤防止システム <sup>※4</sup>	
薬歴入力	音声認識薬歴作成支援システム 電子薬歴レセコン一体型システム <sup>※5</sup>	

- ※1 バーコード管理により、装置内部のロボットアームが、薬剤を薬棚に整列、医薬品が入った箱/ボトルを自動でピックアップして払出。
- ※2 薬袋に記載のバーコードを読み取ると、取りそろえる処方薬がどの保管棚のどの位置にあるかをディスプレイ上に表示。保管位置の探索時間の短縮に寄与。
- ※3 一包化された薬剤の種類・数量を自動判定、薬剤師の監査業務をサポート。30日分、12-13種類の内服薬監査が約30分→5分程度に短縮。
- ※4 レセコンと連動したクラウド型システム。レセコン入力データと取り揃えば薬品のデータを正午し、調剤過誤を防止するシステム。
- ※5 本システムとピッキングサポートシステム(入力した薬品と取り揃えた薬品を照合)の連系により、レセコン・取り揃え薬品・監査した薬品の3 点照合が可能。

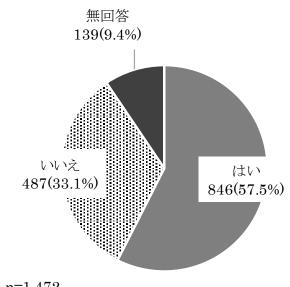
## 2. 薬局 (5)調剤機器等の導入 (電子薬歴システム・電子版お薬手帳の導入状況)

○ 薬局では電子薬歴システム導入している割合は75.7%を占め、電子版お薬 手帳を導入している割合は57.5%である。

#### 電子薬歴システムの導入有無



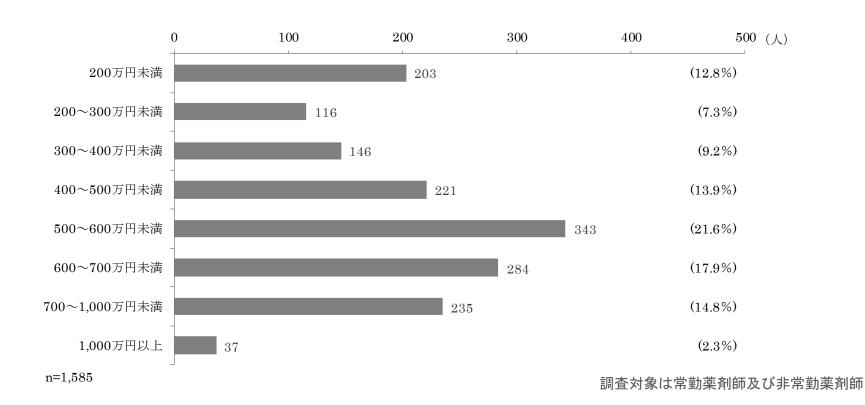
#### 電子版お薬手帳の導入有無



n=1.472

# 2. 薬局 (6) 職場環境・制度等 (年収(金額分布))

〇 薬局薬剤師の年収は「500~600万円未満」が最も多く、平均は488万円 である。

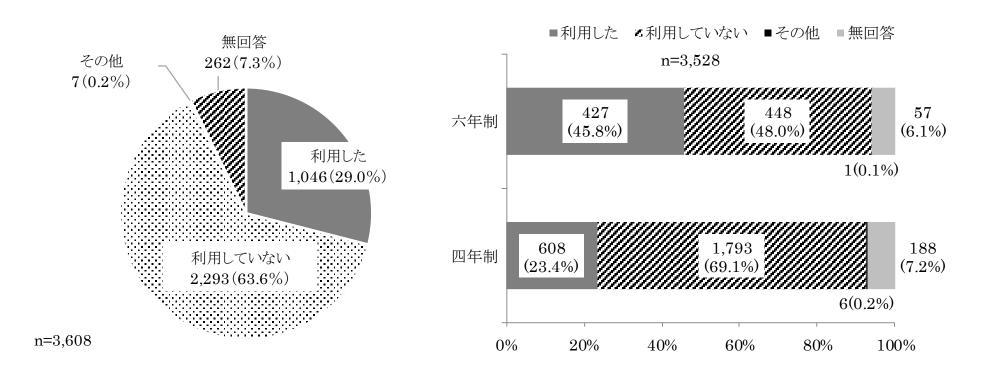


# 2. 薬局 (6) 職場環境・制度等 (奨学金①(利用状況))

- 薬局薬剤師の29.0%が奨学金制度を利用している。
- 大学課程では、6年制の方が奨学金を利用している割合が高い。

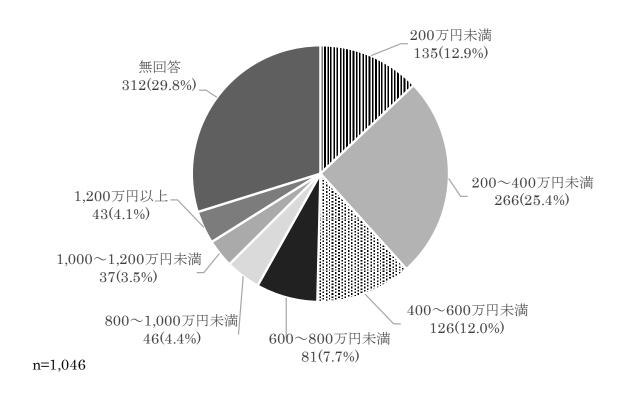
#### 奨学金制度の利用の有無(全体)

#### 奨学金制度の利用の有無(大学課程別)



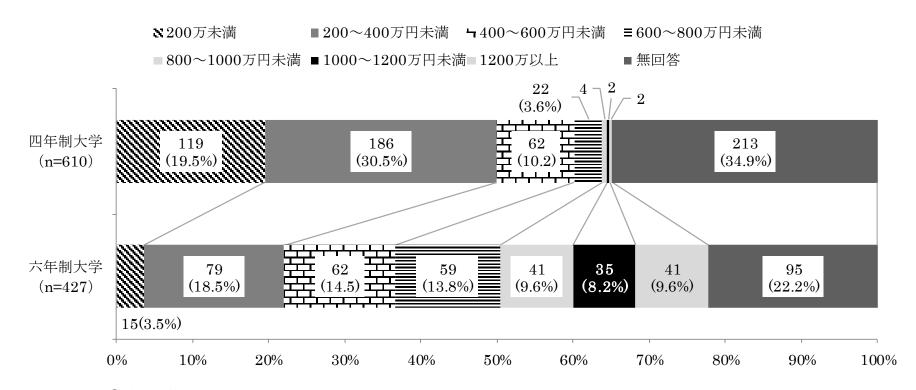
# 2 薬局 (6) 職場環境・制度等 (奨学金②(利用累計額))

〇 卒業時の概算の利用累計額は「200~400万円未満」が最も多く、平均 は461万円であった。



## 2. 薬局 (6) 職場環境・制度等 (奨学金③(大学課程別の利用累計額の比較))

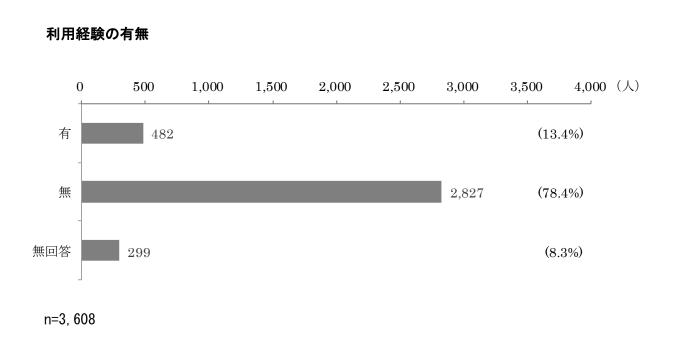
- 〇 4年制では「200万円未満」と「200~400万円未満」に集中しており、 全体の50%を占めている。6年制では「200~400万円未満」が最も多い(18.5%)。
- 600万円以上の割合は、4年制で4.9%、6年制で41.2%と、6年制の 方が利用累計額が多い。

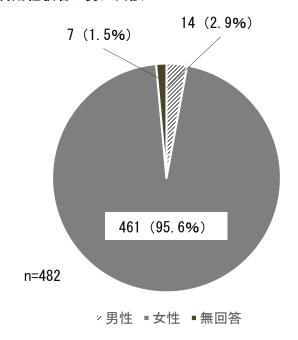


## 2. 薬局 (6) 職場環境・制度等 (休業制度(利用状況))

- 〇 休業制度(産前・産後休業、育児休業、介護休業)の利用経験がある 薬剤師は、全体の13.4%であった。
- このうち、95.6%が女性で、男性では2.9%と僅かであった。

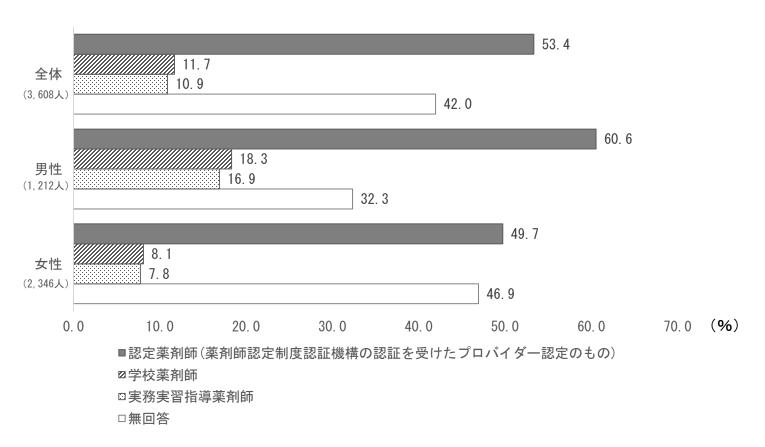
#### 利用経験者の男女内訳





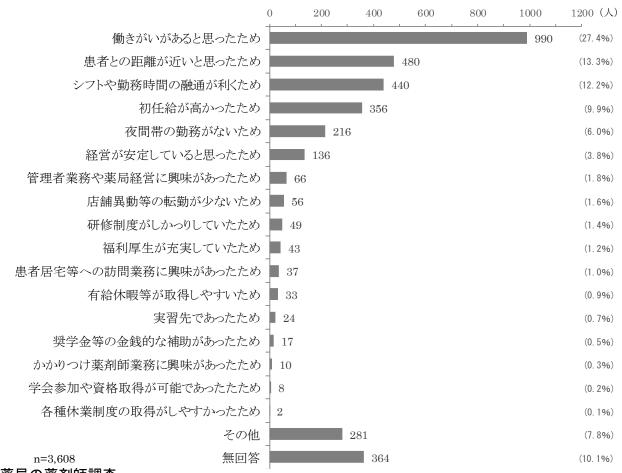
# 2. 薬局 (7) キャリアステップ (認定等)

- 薬剤師全体では、「認定薬剤師(薬剤師認定制度認証機構の認証を受けたプロバイダーが認定)」が最も多く(53.4%)、「学校薬剤師」、「実務実習指導薬剤師」がそれぞれ1割程度であった。
- 男女別にみると、いずれも男性の方が多い傾向にあった。



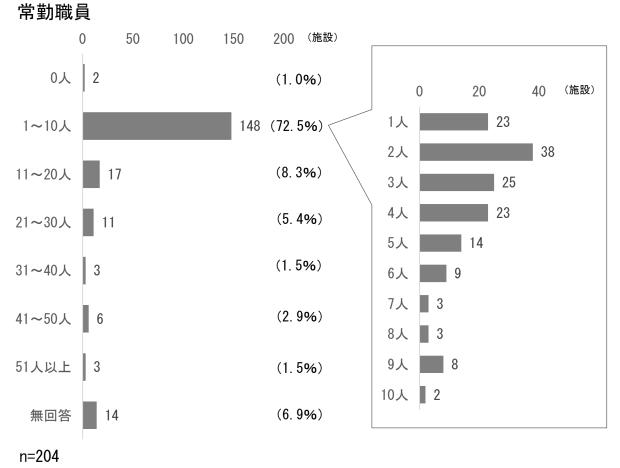
## 2. 薬局 (7) キャリアステップ (薬局選択理由)

〇 「薬局薬剤師として働くこと」を決めた際に、最も重視した理由として「働きがいがある」が最も多く(27.4%)、続いて、「患者との距離が近いと思ったため」のほか、勤務条件に関する理由(「シフトや勤務時間の融通が利くため」「初任給が高かったため」「夜間帯の勤務がないため」)が上位にあがった。

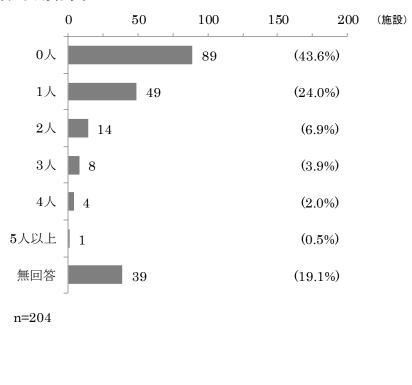


## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の職員数)

- 常勤職員の人数は10人以下が7割を占める。
- 非常勤職員はO人が43.6%である。



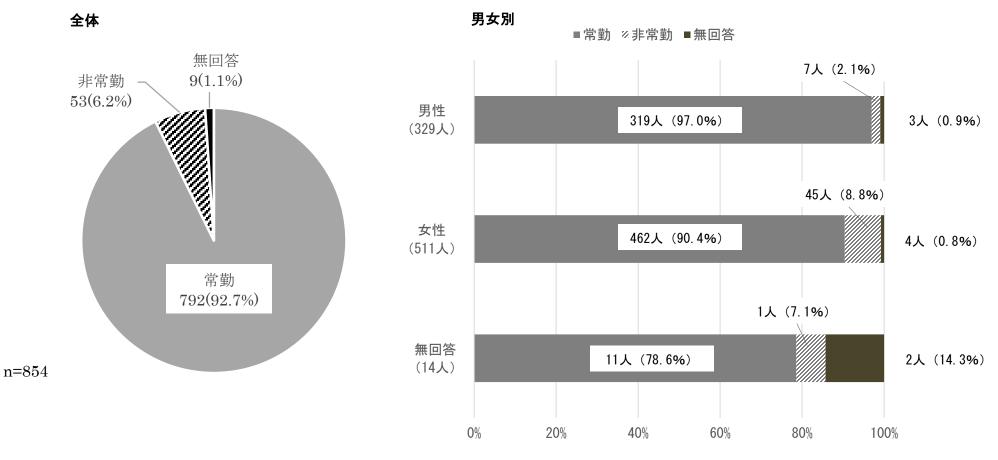
## 非常勤職員



3. 働き方に関する調査 ①病院の施設調査

## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の勤務形態)

- 病院薬剤師の勤務形態は、常勤が92.7%であった。 (参考:薬局薬剤師は、常勤が73.1%(p.5を参照))
- 男女別でも、いずれも常勤が約9割以上である。

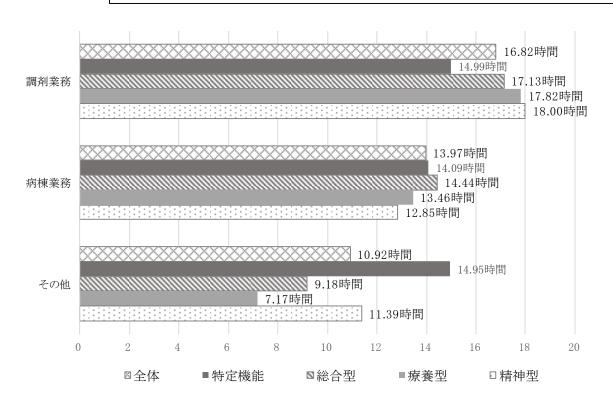


## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1週間の平均業務時間①)

特定機能病院では、総合型/療養型/精神型病院と比較して、調剤業 務の時間が短く、その他業務の時間が長い。

総合型(127):一般病床を8割以上有する病院

精神型(33):精神病床を有する病院



#### 【病院種別(調査施設数)】

特定機能(17):国が承認した特定機能病院

療養型(38):療養病床を有する病院

## 【算出方法】

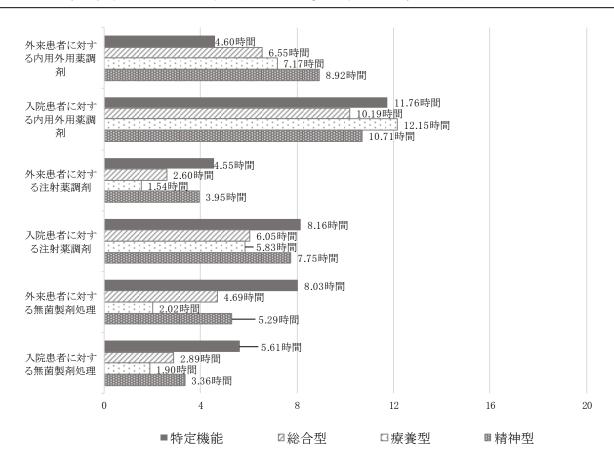
1週間に係る各業務時間の累計を、その業務を行った薬剤師の合計で除して算出。

#### 業務の分類一覧

分類         業務           外来患者に対する内用外用薬調剤 入院患者に対する注射薬調剤 入院患者に対する注射薬調剤 外来患者に対する注射薬調剤 外来患者に対する無菌製剤処理 入院患者に対する無菌製剤処理 入院患者に対する無菌製剤処理 病棟業務 薬剤管理指導 退院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療 毛術室間連		不切以为决 无
①調剤業務	分類	業務
	①調剤業務	外来患者に対する内用外用薬調剤
①調剤業務		入院患者に対する内用外用薬調剤
入院患者に対する注射薬調剤 外来患者に対する無菌製剤処理 入院患者に対する無菌製剤処理 病棟業務 薬剤管理指導 退院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		外来患者に対する注射薬調剤
入院患者に対する無菌製剤処理 病棟業務 薬剤管理指導 退院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		入院患者に対する注射薬調剤
病棟業務     東剤管理指導     退院時薬剤管理指導     入院前の持参薬確認     外来化学療法室での患者指導     薬剤師外来     TDM     院内製剤調整     薬品管理業務     放射線医薬品に関する業務     医薬品情報管理     教育研究実習指導     医療・医薬品安全管理業務     チーム医療		外来患者に対する無菌製剤処理
変病棟業務 退院時薬剤管理指導 及院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		入院患者に対する無菌製剤処理
②病棟業務 退院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		病棟業務
退院時薬剤管理指導 入院前の持参薬確認 外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療	○    ○   	薬剤管理指導
外来化学療法室での患者指導 薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療	②病棟業務	退院時薬剤管理指導
薬剤師外来 TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		入院前の持参薬確認
TDM 院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		外来化学療法室での患者指導
院内製剤調整 薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療	③その他	薬剤師外来
薬品管理業務 放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		TDM
放射線医薬品に関する業務 医薬品情報管理 教育研究実習指導 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		院内製剤調整
医薬品情報管理   教育研究実習指導   医療・医薬品安全管理業務   チーム医療		薬品管理業務
③その他       教育研究実習指導         医療・医薬品安全管理業務         チーム医療		放射線医薬品に関する業務
③その他 医療・医薬品安全管理業務 チーム医療		医薬品情報管理
医療・医薬品安全管理業務チーム医療		教育研究実習指導
		医療·医薬品安全管理業務
手術室関連		チーム医療
1 MIINE		手術室関連
退院時共同指導		退院時共同指導
在宅患者訪問薬剤管理指導業務		在宅患者訪問薬剤管理指導業務
治験臨床研究関連		冶験臨床研究関連
自己研鑽		自己研鑽
その他		その他

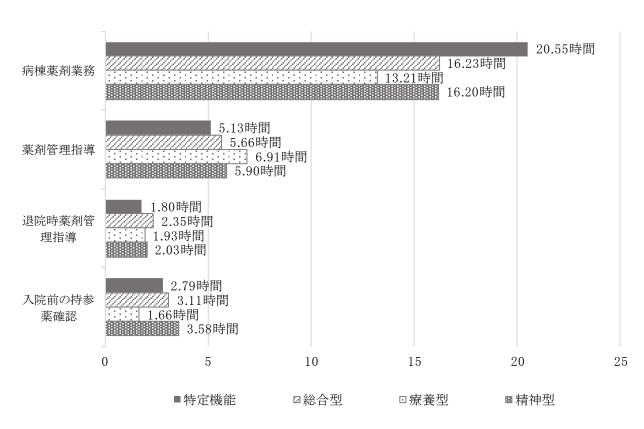
## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1週間の平均業務時間②(調剤業務(内訳))

○ 特定機能病院では、総合型/療養型/精神型病院と比較して、入院患者に対する業務時間が長く、また、外来患者に対する業務のうち注射薬調剤/無菌製剤処理に要する業務時間が長い。



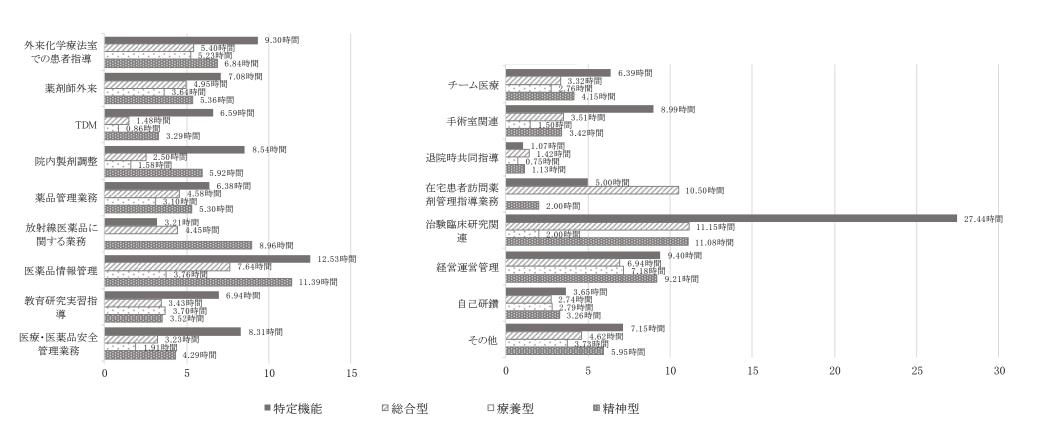
## 3. 病院 (1)人員·勤務体制 (薬剤師一人当たりの1週間の平均業務時間③(病棟業務(内訳))

〇 特定機能病院では、総合型/療養型/精神型病院と比較して、病棟薬剤業 務の時間が長い。



## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1週間の平均業務時間④(その他業務(内訳))

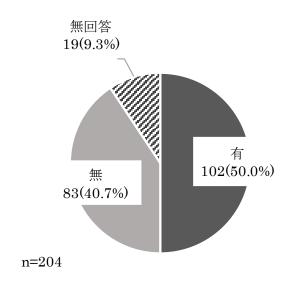
- 担当業務によって時間の差が大きい。
- 退院共同指導は、いずれの類型の病院においても他の業務と比較して短い。



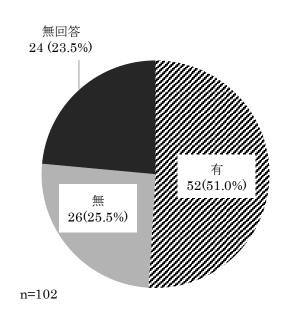
## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (急性期病棟の専任薬剤師)

○ 半数の施設で急性期病棟があり、このうちの半数が専任の薬剤師を配置している。

#### 急性期病棟の有無



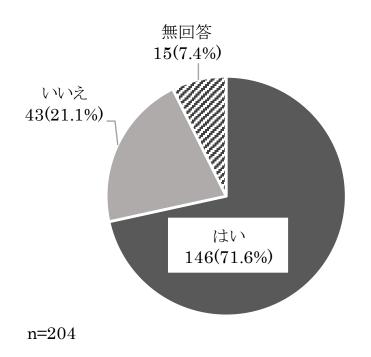
## 専任薬剤師の有無



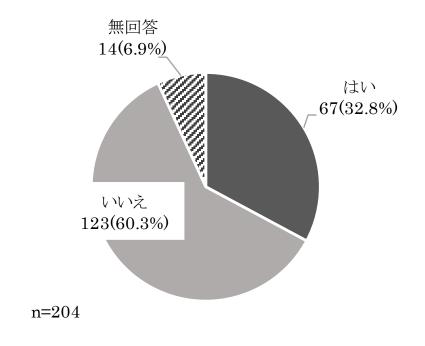
## 3. 病院 (1)人員·勤務体制 (病棟業務)

〇 薬剤師が病棟業務行っている割合は約7割であり、病棟薬剤業務実施加算 の算定をしている割合は約3割。

#### 薬剤師の病棟業務の有無



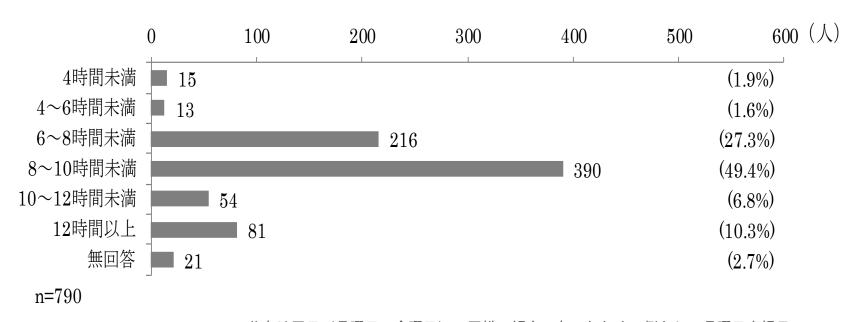
#### 病棟薬剤業務加算の算定有無



3. 働き方に関する調査 ③医療機関の施設調査

# 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師一人当たりの1日の勤務時間)

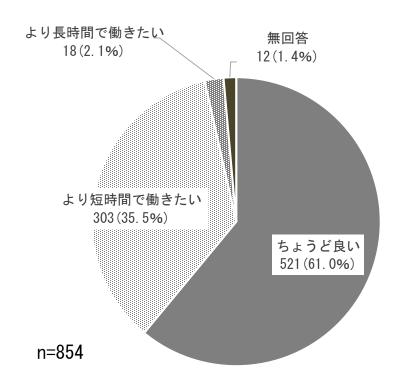
○ 業務日の勤務時間合計(休憩時間は除く、残業を含む)は、8~10時間が 最も多い。



分布は平日(月曜日~金曜日)で同様の傾向であったため、例として月曜日を提示 調査対象は常勤薬剤師及び非常勤薬剤師

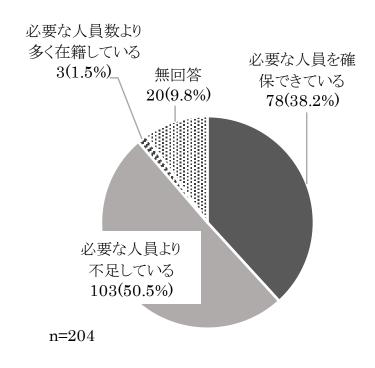
# 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (勤務時間と理想的な働き方)

○ 現在の勤務時間実績に関して、「ちょうど良い」が61.0%で最も多く、「より短時間で働きたい」と感じている薬剤師も35.5%存在する。 (参考:薬局薬剤師は、「ちょうど良い」が65.7%、「より短時間で働きたい」が29.2%(p.10を参照))



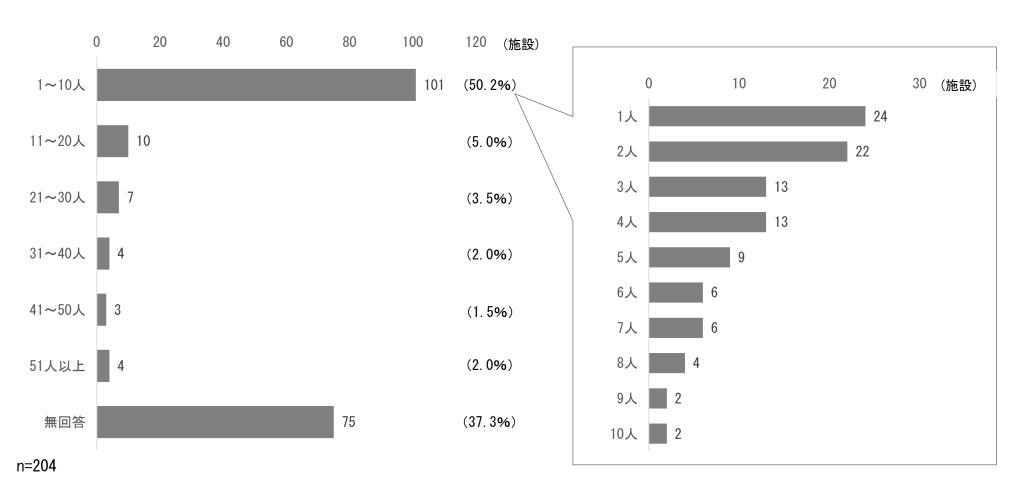
## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (人員数の充足状況)

○ 薬剤師人員数の充足状況については、「必要な人数より不足している」が半数(50.5%)を占め、薬剤師確保が課題となっている。 (参考:薬局は、「適切な人数より不足している」が19.4%、「適切な人数を確保できている」が60.5%(p.11を参照))



## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (適切な充足人員総数)

○ 薬剤師が適切な人数に充足すると考えられる人数(常勤換算)は、10人以下が半数を占める。



## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の募集①(常時募集の実施状況))

〇 常時の薬剤師募集状況は以下のとおり。薬局と比較して病院の方が募集 割合が高い。

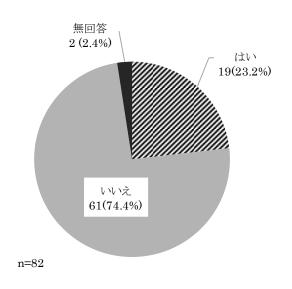
(参考:薬局では、常時募集の実施割合は26.6% (p.13を参照) )

○ 募集開始後3カ月以内に応募があった割合は、いずれも23.2%であった。

#### 常時の薬剤師募集状況

## 無回答 14(6.9%) はい 82(40.2%) 108(52.9%)

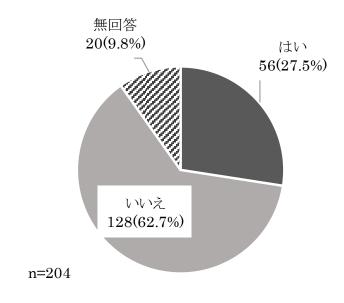
#### 常時薬剤師募集開始後3カ月以内の応募有無



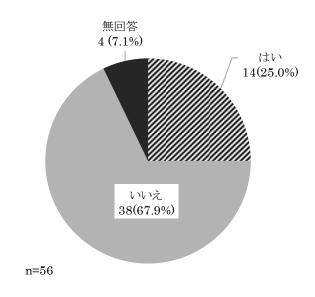
## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の募集②(定期募集の実施状況))

- 〇 定期(毎年同じ時期)の薬剤師募集状況は以下のとおり。薬局と比較して病院の方が募集割合が高い。
  - (参考:薬局では、定期募集の実施割合は13.7% (p. 13を参照) )
- 募集開始後3カ月以内に応募があった割合は、25.0%であった。

#### 定期(毎年同じ時期)の薬剤師募集状況



#### 定期募集開始後3カ月以内の応募有無



#### 3. 働き方に関する調査 ③医療機関の施設調査

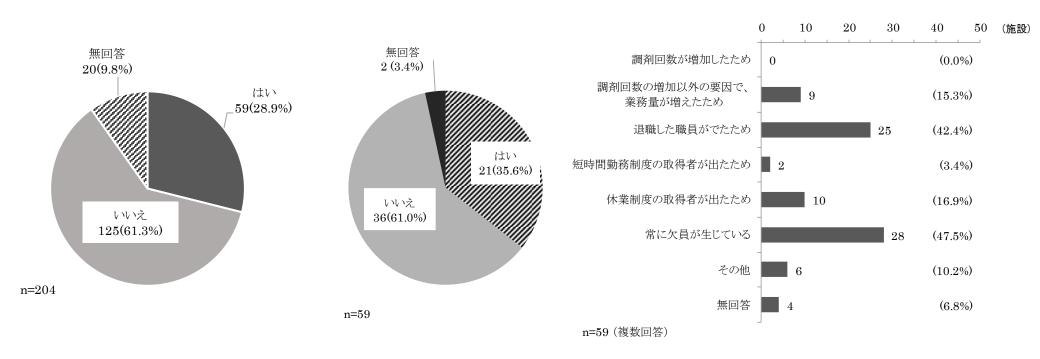
## 3. 病院 (1)人員・勤務体制 (薬剤師の募集③(臨時募集の実施状況/実施理由))

- 平成31年4月~令和2年3月の1年間に臨時に薬剤師を募集した薬局は 28.9%であった。このうち、3カ月以内に応募があった割合は、 35.6%であった。
- 臨時募集の理由(複数回答)は、「常に欠員が生じている」が最も多い。

#### 臨時の薬剤師募集状況

#### 臨時募集開始後3カ月以内の応募状況

#### 臨時薬剤師募集理由

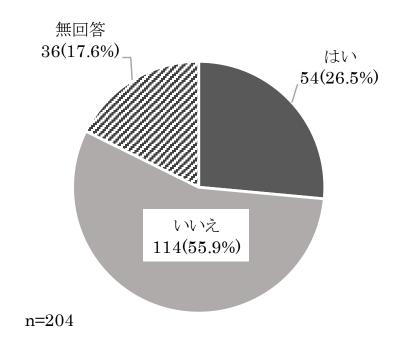


#### 3. 働き方に関する調査 ③医療機関の施設調査

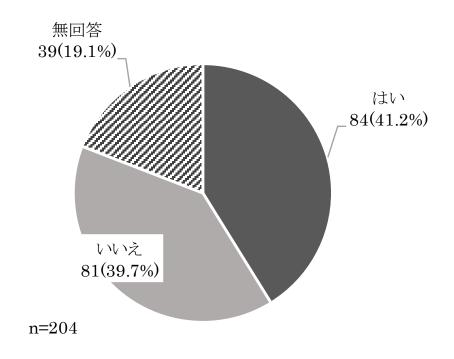
# 3. 病院 (2)薬局との連携体制 (薬局への入院時・退院時の情報提供)

- 患者の入院時に薬局から情報提供を受けている割合は26.5%。
- 患者の退院時に薬局へ情報提供を行う割合は41.2%。

#### 入院時の薬局からの情報提供の有無



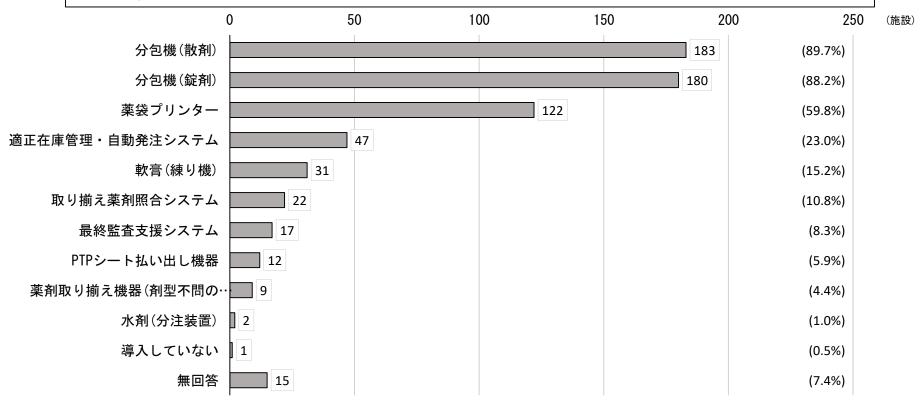
#### 退院時の薬局への情報提供の有無



## 3. 病院 (3)調剤機器等の導入 (機器の種類)

〇 薬袋プリンターを約6割の病院が、分包機を約9割の病院が導入している。

(参考:薬局における導入は、分包機や薬袋プリンターを約7~9割(p.35を参照))

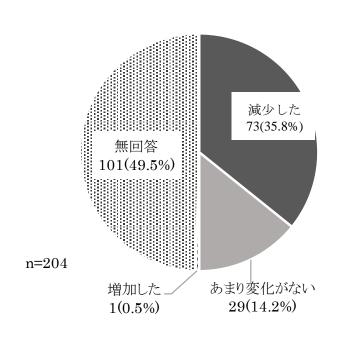


n=204 (複数回答)

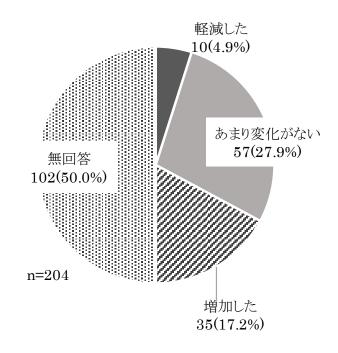
## 3. 病院 (3)調剤機器等の導入 (機械化の効果)

- 〇 調剤業務の機械化により、薬剤師の調剤業務時間が「減少した」とする病院は35.8%であった。(参考:薬局では18.4%(p.36を参照))
- 〇 調剤業務の機械化により、薬剤師の対人業務時間が「増加した」とする薬局は17.2%であった。(参考:薬局では10.7%(p.36を参照))

#### 薬剤師の調剤業務時間



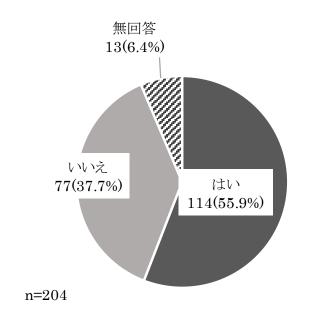
#### 薬剤師の対人業務時間



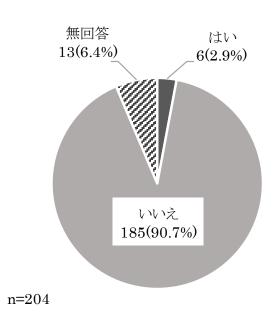
## 3. 病院 (3)調剤機器等の導入 (電子カルテ・電子版お薬手帳の導入状況)

〇 電子カルテ導入している割合は55.9%と半数を超えているが、電子版 お薬手帳を導入している割合は2.9%と僅かである。

#### 電子カルテの導入有無

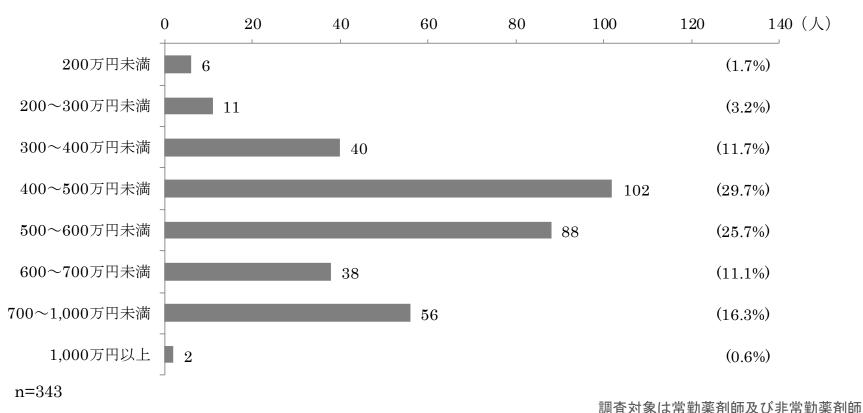


### 電子版お薬手帳の導入有無



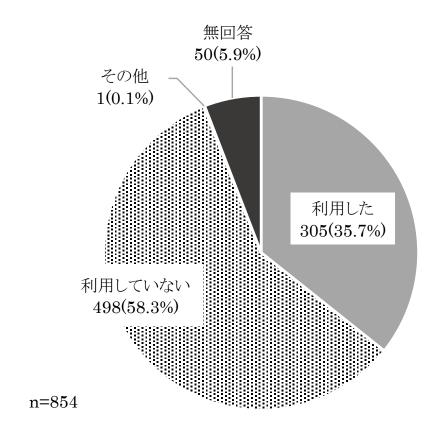
# 3. 病院 (4) 職場環境・制度等 (年収(金額分布))

〇 病院薬剤師の年収は、「400~500万円未満」が最も多く、平均は512万円 である。



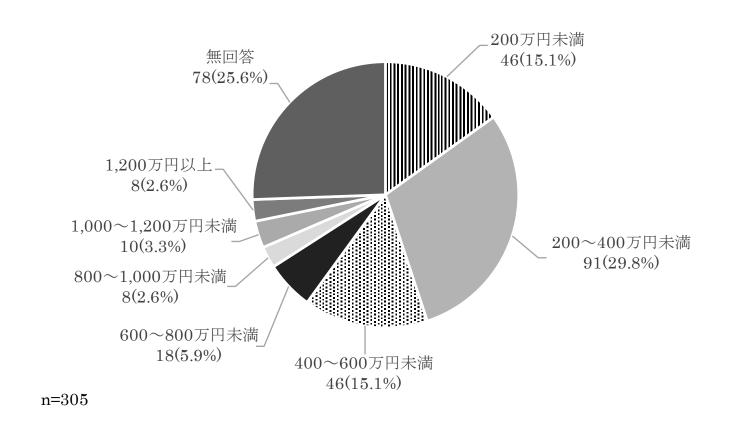
# 3. 病院 (4) 職場環境・制度等 (奨学金①(利用状況))

〇 病院薬剤師の35.7%が奨学金制度を利用している。



# 3. 病院 (4) 職場環境・制度等 (奨学金②(利用累計額))

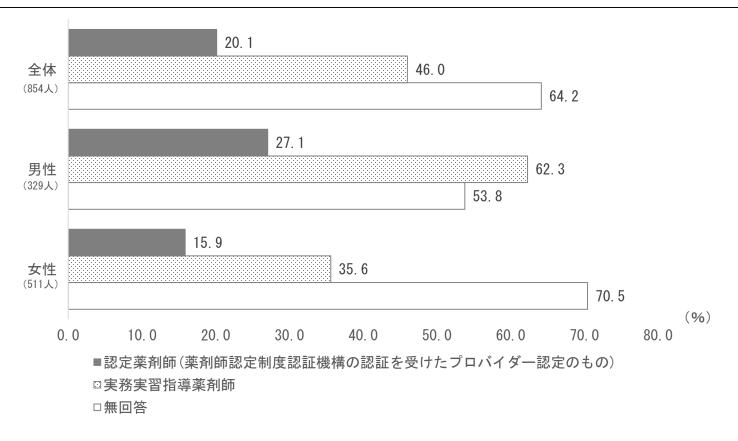
〇 卒業時の概算の利用累計額は「200~400万円未満」が最も多い。



68

# 3. 病院 (5) キャリアステップ (認定等)

- 〇 薬剤師全体では、「認定薬剤師(薬剤師認定制度認証機構の認証を受けたプロバイダーが認定)」が20.1%、「実務実習指導薬剤師」が46.0%であった。
- 男女別にみると、いずれも男性の方が多い傾向にあった。



## 3. 病院 (5) キャリアステップ (医療機関選択理由)

〇 「医療機関に従事すること」を決めた際に、最も重視した理由として「働きがいがある」が最も多く(48.6%)、続いて、業務内容に関する理由(「専門性の高い業務に関われるため」「チーム医療・多職種連携に興味があったため」「病棟業務に興味があったため」)が上位をあがった。

